

# 福井県民の将来ビジョン 地区別意見交換会 (坂井地区および永平寺町)意見交換概要

## 〔人づくり〕

- 人にランクを付けることは一面的な活力になるが、挫折し、落ちこぼれた人を多く見てきた。いじめが無い、人間関係が良い、苦しい時にお互い助けあうなどのプログラムが福井県の中で充実しているようなイメージづくりが大切。
- 若い人が社会に出て行くためには、一面だけに光をあてることはいけないのではないか。活力を失わずに相対的に皆が幸せになる目標があるとよい。
- 学力・体力日本一の背景は、家庭、地域、行政もあるが、やはり先生の努力が大きいと感じる。先生がより仕事し易いような学習環境を整備することが大事。
- 学校に勤めていたが、子どもがある時期から変わったように感じたことがある。それは、指導要領が頻繁に変わったことに関係しているように思う。先生が指導要領を自分のものにする時間のゆとりが無く、困っているのではないか。軸のブレない教育が必要。
- 親を巻き込んだ教育を行ってはどうか。小学校を開放し、料理教室、絵本の読み聞かせなど心の教育により、親も一緒に育つ教育がよいのではないか。
- 福井県民の特性に信仰心、宗教心があると思う。永平寺や吉崎御坊など幼い頃から触れる教育が福井らしさであり、そのことで、障害を乗り越える力強さ、ねばり強さを伸ばしていくことが大事である。
- 人づくりに関しては競争を促進すべきではないか。今の子ども競争に揉まれておらず挫折をしていない。競争で育った力強い子どもが、福井を引っ張る人材になるのではないか。
- テレビ番組で、一線を退いた学校の先生のOBが自宅で無料で塾を開いていることが紹介されていたが、市街地の空洞化した商店を借りて塾をやる体制づくりが、高齢者の知力を引き出すことが出来るのではないか。
- 社会ではコミュニケーション能力が非常に重要であると思う。それを形成するには、部活動や青壮年活動が有効である。
- 温泉ではインバウンドのことを考えると、語学力が大事。あわら市は浙江省と姉妹提携を結んでおり、学校で中国語の授業があってもよい。特色ある教育を行なって欲しい。
- 人づくりは、家庭、学校、社会とそれぞれの役割があり、これらを噛み合わせた人づくりが必要である。
- 家庭でも学校でも社会でも大人が誇れる姿を見せられることが大事

## 〔元気なコミュニティづくり〕

- 福井は高齢者施設整備率（人口比）全国トップクラスであり、この社会資源を活かしていきたい。
- アンケート（坂井市、あわら市）によると、最期を在宅で迎えたい人が8割を超えている。恵まれた施設を基地（拠点）として地域支援を在宅で行うとよい。
- 介護現場の働き手として高齢者を活用し、バックアップしていく体制を整えることでお金のかからない在宅サービスが可能ではないか。
- 兵庫県から1カ月前あわらに来た。家族住まいが多い、子どもが多い世帯が多いことが印象深い。地域活性化のためには人口増加が第一条件になるのではと思うので、3世代同居率の高さを維持しつつ、子どもを多く産める政策を推進してもらえると良い。
- 学力・体力日本一は、現実にはある一部の熱心な先生のおかげ、また、子育て日本一は女性の負担、犠牲の上で成り立っているのではないか。良い数字を出すのはいいが、現場はフラフラではないか、本当に底力があるのか点検していかなければならない。地道に政策を積み上げていくべき。
- 今年、子どもが小学校に入学した。一年生だから放課後児童クラブに入れることができたが、来年はあきらめている。どの地域も同じだと思うが、対応して欲しい。
- 限界集落で頑張っているところがある。福井新聞のコウノトリ通信のように県職員を頑張っている地域へ特派員として派遣し、情報を吸収し発信することで手厚くコミュニティを支える制度が必要ではないか。
- 資料では、元気なコミュニティづくりで、特に女性にこだわっているが、やはり男性の参加も必要。男性の子育て参加がもっと浸透していくと良い。
- 寝たきりは一日預かれない介護福祉施設が多いと聞いた。年に何回か預かれる制度があるとよい。
- 全国の九頭竜川ファンは福井県に対して良いイメージを抱いており、福井県に住みたいという声をたくさん聞いている。
- 永平寺町の伝統料理に、油桐の葉っぱで包む鱒のお寿司がある。遡上してきたサクラマスを使うのが本当の鱒寿司で、現在は激減し輸入のものを使っているが、10年後にサクラマスの遡上数が今の約10倍に回復できれば、伝統料理が再現できる。
- 九頭竜川の美化は、上流から下流にかけて住民全員が九頭竜川を清流のまま守っていこうという意識に立たないと守ることはできない。ボランティアがゴミを拾うなどの活動を続けているが、上流から下流まで繋がるような橋渡しをどこかで行っていかなければならない。
- 環境を良くするためにマイナス成長を受入れる社会を構築するのであれば、小さい頃からの環境教育を行っていないといけな。高度経済成長を経験した世代は、急に対応できず、10～30年の長いスパンの中で環境教育を取り入れていくことが必要である。

- 自然エネルギーについて、あわら市は風力発電の建設が進んでおり、様々なメリットがあると思うが、騒音などのデメリットもある。ヨーロッパなどの先進地域では、民家から1キロ以上離すという法律や、静岡県では300メートル以上離すという条例がある。福井県には条例がないので、早急に対応して欲しい。

## 〔まちづくり〕〔産業〕

- 農商工連携の助成金で研究開発に取り組んでいるが、予算の要件のハードルが高い。
- 工業技術センターは、繊維、眼鏡の試験装置は豊富だが、金属加工の試験装置が無い。大阪の試験機関に持っていつている。県は金属加工業にも力を入れて欲しい。
- 山間地の高齢化が非常に進んでいる。地方と都市の若者の交流を推進して欲しい。都会には農林業に関心のある若者が多いと聞く。そのような若者を派遣する事業に取り組んで欲しい。
- 私が参加している緑のふるさと協力隊では、昨年度の定住率は全国で40%である。今、都市部の若者は、農村で暮らしたい人が多く、その理由は、イメージの域を出ないが、農村には都会にないものがあるからである。消費だけでなく生産に携わりたい若者が非常に多く、きっかけ作りとして、私のような希望者を受入れて、任期が終わっても定住できるように仕事を斡旋すると人口が増えると思う。
- 都会からの農業の研修者には、あこがれとして趣味程度に農業をしたい方と、生活として農業をしたい方がおり、意向をしっかりと把握すると定着するのではないか。
- 国の方針として全国的に6次産業化を薦めているが、農業で儲からないから加工などの違うところに利益を求めているだけであり、まず、農業所得を増やすためにどうするかを考えるべきである。
- 10年後を考えた時、農業従事者の確保が大きな課題。また、農業への企業の参入が進められているが、大規模な農地を求めてくることが予想され、小規模農家とのすみ分けを早いうちにすべき。

## 〔その他〕

- 将来ビジョンの進捗についてアンケートが必要ではないか。バージョンアップしていく材料としても有効である。県と市町が共同でアンケートづくりをしてもよい。
- 観光において福井は何を売りにすべきか？関西のコンサルタントと話した時、健康長寿で売り出すべきだという意見があった。私も同感である。
- 地域主権については、言葉の定義付けについてもう一度検討し、分かりやすく誤解のないようにして欲しい。